

令和6年12月4日

三浦市議会議長 出口 眞琴 様

議会運営委員会

委員長 神田 眞弓

令和6年度 議会運営委員会行政視察報告書

1. 視察日程

令和6年11月11日(月)・12日(火)

2. 視察地

島根県浜田市

島根県江津市

3. 視察参加者

議会運営委員会

委員長 神田 眞弓

副委員長 小林 直樹

委 員 石崎 遊太 草間 道治 千田 征志

森谷久一郎 長島満理子

議 長 出口 眞琴

随 行 福田 正雄 長島ひろみ

4. 視察事項

◇ 島根県浜田市

議会改革について

・タブレット端末の活用

・広聴機能の充実

◇ 島根県江津市

議会運営について（対面式議場での議事運営について）

【11月11日(月)】

(浜田市HPより)

■ 島根県浜田市の概要

- ・ 面 積 690.64平方キロメートル
- ・ 人 口 48,758人(令和6年11月1日現在)
- ・ 世 帯 数 25,080世帯(〃)
- ・ 産 業 別 第1次産業(5.9%) 第2次産業(21.7%)
第3次産業(72.3%)
- ・ 市制施行 平成17年10月1日

■ 市の概要

「住みたい 住んでよかった 魅力いっぱい 元気な浜田」
～豊かな自然、温かい人情、人の絆を大切にするまち～



平成17年10月1日に、浜田市、金城町、旭町、弥栄村、三隅町の5市町村が合併し、新「浜田市」が誕生しました。

全国に誇れる海、山などの美しい自然と、日本遺産に認定された石見神楽、北前船寄港地の外ノ浦やユネスコの無形文化遺産に記載された石州半紙などの伝統文化、海水浴場、しまね海洋館アクアスなど豊かな自然を活かした観光資源を有しており、また、高速道路、港湾などの都市基盤や大学、美術館をはじめとする教育文化施設が充実した、人と文化と自然の調和のとれた島根県西部の中核都市です。

島根県西部の日本海を望む位置にあり、東は江津市、邑南町、西は益田市、南は広島県に隣接しています。

市域は、東西46.4キロメートル、南北28.1キロメートルで、面積690.64平方キロメートルです。

浜田市の大部分が、丘陵地や山地で、中国山地が日本海まで迫り、また、切り

立ったリアス式地形と砂丘海岸の織り成す海岸線は、優れた自然景観と天然の良港をもたらしています。

市には、浜田川、周布川、三隅川等の主要河川が流れており、水資源に恵まれ、河川の下流域には平地を形成し、市街地や農地が展開しています。全体としてまとまった平地は少ないですが、豊かな自然を有し多面的機能をもつ中山間地域に恵まれ、国土および環境の保全や地下水の涵養等に大きな役割を果たしています。

対馬海流の影響で比較的温暖であり、冬季の積雪も少なく自然環境や居住条件に恵まれた地域です。



■ 浜田漁港

浜田漁港は県内唯一の特定第三種漁港で、昭和27年に第三種、昭和44年に特定第三種漁港に指定されました。

本地区の漁業は、古くから底魚資源を対象とした沖合底曳網漁業と、浮魚を対象とした中型まき網漁業が基幹産業です。

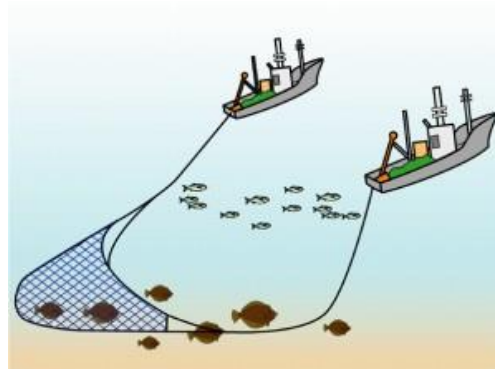
その他、一本釣、定置網漁業があり、陸揚げされる魚種は多岐にわたっています。

○水揚げされる主な魚種

浜田漁港に水揚げされる主な魚種は

- ・ 沖合底曳網漁業
(かれい類、のどぐろ、あんこう、いか類等)
- ・ まき網漁業
(あじ、さば、ぶり類、いか類等)
- ・ 一本釣漁業
(いか類、ぶり類、貝類等)
- ・ 定置網漁業
(ぶり類、あじ、いか類、さわら等)

などがあります。

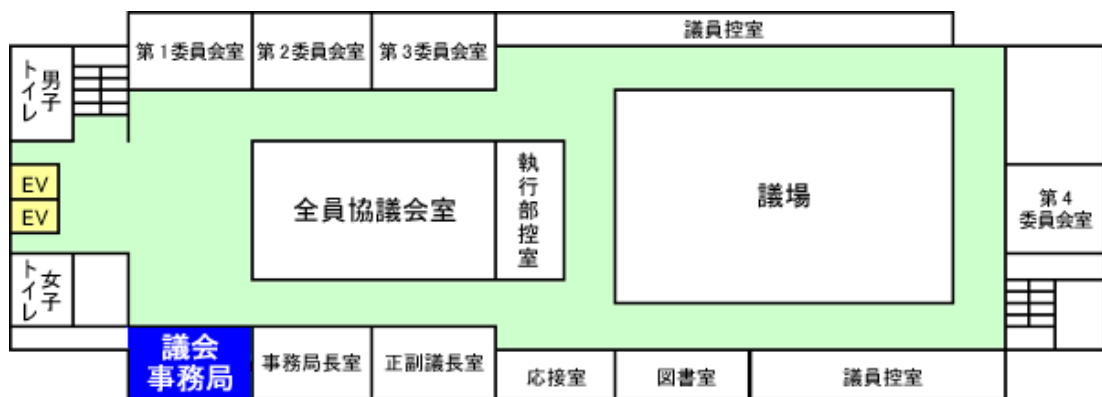


■ 浜田市議会の概要

- ・ 議員数 21人（定数22人）
- ・ 委員会 （常任委員会）※人数は現員数
 - 総務文教委員会（6人）
 - 福祉環境委員会（7人）
 - 産業建設委員会（7人）
 - 予算決算委員会（20人）
 - 議会広報広聴委員会（10人）
- （特別委員会）
 - 議会改革推進特別委員会（8人）

★ 浜田市議会HP

<https://www.city.hamada.shimane.jp/www/gikai/index.html>



島根県浜田市

議会改革について

(公聴機能の充実、タブレット端末の活用)

●視察目的

三浦市議会では、三浦市議会基本条例に基づき「市民に開かれた、市民のための議会」を目指した取組を進めています。その中で、現在重点的に議論を行っているタブレット端末のさらなる活用と、議会報告会などの市民意見を市政に反映するための取組に資するため、議会改革の先進地である浜田市議会を訪問し、当市議会の運営に生かせる事例などを調査します。

●視察先対応者

進行・説明：松井和雄次長

説 明：牛尾 昭議会改革推進特別委員長（挨拶）

村武まゆみ議会広報広聴委員長（はまだ市民一日議会について）

小寺一平主任主事（タブレット端末の活用について）

●視察訪問先

浜田市役所



●視察概要

■議会改革について

浜田市議会では、議会改革として、主に広報広聴機能の強化として積極的な情報の公開（ホームページ・議会だよりの充実、議会報告会、意見交換会、はまだ市民一日議会）、議会機能の強化（通年会期の導入、所管事務調査の充実）などを図っている。議会改革度ランキング2023では、情報共有については全国7位、総合ランキングで13位（四国・中国・九州地方では2年連続1位）となった。

1. 広報広聴機能の充実

議会広聴の取組

①はまだ市民一日議会～議会広報広聴委員会の活動について～

浜田市議会では、議会広報広聴委員会を常任委員会に位置づけ、それ以外の3常任委員会（総務文教、福祉環境、産業建設）から3人ずつ委員を選出。

3年ごとにスローガンを掲げ、これに基づいた取組を進める。現在（2023年～2025年）のスローガンは「ミライへつながる議会」（過去は「議会をより身近に～双方向の関係構築～」 「市民の声を第一に～聴くことから始めよう～」）。スローガンを基に、現在は若者の声を市政に入れることや主権者教育に力を入れており、「はまだ市民一日議会」にも取り組まれている。

○「はまだ市民一日議会」の概要

- ・市民が議場で1人ずつ意見を言う。定員（10人）を超えると抽選。
- ・議場では、市民が議員席に着席し、議員が説明員席に着席する。
- ・持ち時間は10分。始めの5分で意見を述べ、残りの5分で議員が発言者に質疑を行う。
- ・全ての発言について、後日、全員協議会で協議を行い、発言者には議長名で対応した結果を返している。
- ・チラシを作成して周知をしており、小学生向けには記載内容をやさしくしたものを配布している。
- ・開催の効果としては、市民と議会の距離が縮まった。また、若い世代の参加が増えた。
- ・成果の例……①中学生が「ボールを蹴ることができる公園が欲しい」と発言→



新たに公園ができたほか、別にボールを蹴ることができる敷地もつくられた。

②「子どもの権利条例をつくってほしい」と発言→議員有志により「子どもの権利を考える議員連盟」がつくられた。

②議会報告会

- ・ワークショップ形式で開催。
- ・5月に開催し、予算編成の内容を報告している。
- ・開催場所を当初の8か所から28か所まで増やした。場所を増やしたことで多くの方に来てもらえるようになった。

③意見交換会

④ぎかいポスト

議会広報の取組

①議会だより

②議会だよりmini

③浜田市議会ホームページ

④YouTube

それぞれ資料により浜田市議会の取組について説明を受けた。

2. タブレット端末の活用

- ・平成30年6月からタブレット端末を議員に貸与し運用している。
- ・タブレット端末は購入により用意をしたため、端末の更新後は旧端末を委員会中継用のカメラ（写真のように委員会室の上部に取り付ける）、執行部・傍聴者用として活用している。
- ・導入しているアプリケーションは、SideBooks、LINEWORKS、Zoom。



■主な質疑応答

はまだ市民一日議会について

Q：グループ単位でも参加できるのか。

A：子供が1人で発言するのは心もとないということでグループにまとめたことがある。一人一人別のテーマで発言をしたので一人当たりの時間が短くなってしまった。次にグループでの参加があった場合はテーマを統一したほうがいいと話をしている。

Q：学生が応募しやすくするための工夫は。

A：議員がゼミの先生に直接声をかけるなどしている。市内に県立大学があり、地域政策部があるので生徒の関心は高い。

そのほか、子供向けの案内は柔らかい表現にする工夫をしている。

Q：発言内容のガイドラインなどはあるのか。また、問題発言などは生じていないのか。

A：発言に当たっての説明文は配っている。また、問題発言があった場合はすぐに止めることを事前に伝えている。実際に問題となる発言がされたことがあったが、その映像は公開していない。

Q：傍聴者は多いのか。

A：初めての開催のときは多かったが、年々減ってきている状況。

Q：発言の準備をする期間はどのくらいあるのか。

A：募集の開始から当日までは2か月くらいの間がある。

Q：発言の原稿はどのようにつくっているのか。

A：知り合いの議員にレクチャーを受けている人もあるが、自分でつくっている人が多い。

Q：議員からの質疑は事前に調整などは行っているのか。

A：行っていない。

Q：議会事務局職員の仕事は増えていないのか。

A：増えている。

Q：開催による効果は。

A：発言者同士の交流、つながりが生まれている。



議会報告会について

Q：28か所で開催しているが、どのように対応しているのか。

A：議員3人で1つのチームをつくり、1つのチームが5か所くらいを対応している。3人では大変だという声もある。新人議員を鍛えるのにとってもよい。市民からの意見などに答えられないで終わることもある。

Q：1回の開催時間はどのくらいか

A：2時間程度で、初めに15分説明を行い、残りの時間で参加者の意見を聞く。通年会期でいろいろなことをしている中での開催なので大変である。

Q：議員個々の意見は統一しているのか。

A：もし考え方などを言ったとしても「あくまでも個人的な意見」と理解していただいている。

Q：同じ市民が何回も来ることはあるのか。

A：ある。中には「この議員がいる場で発言したい」という人もいる。なお、地元の開催日時では都合が合わないからということで別の地域での開催に参加することも可能。

タブレット端末の活用について

Q：全議員が使いこなせているか。

A：苦手な人もいるが、事務局がフォローしている。大分使えるようになってきている。

Q：一般質問の読み原をタブレットに入れている議員はどのくらいいるか。

A：タブレット・紙とどちらもいるが、どちらかというと紙の原稿を使う議員が多い。

Q：オンライン会議の実施事例は。

A：常任委員会などで行った。市外に出張している議員が参加した事例がある。



議会なんでもメールについて

Q：届いたメールの公表はどのように行っているのか。

A：議会ホームページに掲載している。適切なものを掲載しているので、載せていないものもある。

Q：匿名の投稿でもよいのか。

A：匿名でも構わない。内容の精査は正副議長、議会事務局長が行っている。



【11月12日(火)】

■ 島根県江津市の概要

(江津市HPより)

- ・ 面 積 268.24平方キロメートル
- ・ 人 口 21,326人(令和6年9月末現在)
- ・ 世 帯 数 10,976世帯(〃)
- ・ 産 業 別 第1次産業(4.3%) 第2次産業(25.4%)
第3次産業(70.4%)
- ・ 市制施行 昭和29年4月1日

■ 市の概要

中国地方最大の大河、江の川。中国山地の水源から194キロ、多くの支流の水を集め日本海に注ぐ河口に、江津市は位置しています。「江津(川の港)」の名のとおり、古くは江の川河口の港として発展し、江戸時代には北前船の寄港地として栄えました。かつての中心地であった江津本町には江戸時代に建築された商家の家屋なども多く残り、往時の面影を今にとどめています。江の川を通じた地域間のつながりも深く、平成16年に同じ江の川流域の桜江町と合併し現在の市域となりました。

良質な粘土層に恵まれていることから、日本三大瓦の一つ、石州瓦の産地としても知られます。「来待(きまち)色」とも呼ばれる赤瓦は寒さに強く、耐久性に優れ、全国各地に流通しています。市内には江津本町をはじめ赤瓦の町並みが広がり、地元のアイデンティティーにもなっています。

江津市は、高等学校「地理A」の



教科書で「東京から一番遠いまち」として取り上げられたことがあります。

これを逆手に取り、2016年には東京・渋谷ヒカリエでイベント「東京なんてフっちゃえば?展~東京からいちばん遠いまち島根県江津市からの提案」を開催。江津で生まれたデザイン・製品を展示したほか、地元のクリエイターらによるトークセッションを開いたところ、3日間で1,000人が訪れました。「東京から一番遠い」は、江津の売りでもあります。

■ 江津市議会の概要

- ・ 議員数 16人
- ・ 委員会 (常任委員会)
 - 総務民生委員会 (8人)
 - 建設経済委員会 (8人)
 - 予算決算委員会 (14人)
- (特別委員会)
 - 地域医療対策特別委員会 (6人)
 - 市議会だより編集特別委員会 (7人)
 - 広報広聴特別委員会 (6人)
 - 波積ダム対策特別委員会 (6人)
 - 議会活性化特別委員会 (13人)
 - 江の川流域治水対策特別委員会 (13人)

★江津市議会HP

<https://www.city.gotsu.lg.jp/site/gikai/>



島根県江津市

議会運営について

(対面式議場での議事運営について)

●視察目的

三浦市議会では、「新庁舎建設等に関する検討会」を設置し、市民交流拠点に整備される市役所新庁舎の議会関連施設、必要な機能等の検討を進めています。

新たに対面式議場を導入することを決定しており、現在とは異なる議事運営の参考として、江津市議会の議場を中心とした議会関連施設と議事運営について調査します。

●視察先対応者

進 行： 梶岐政和議会事務局長

挨拶： 鍛冶恵巳子副議長（歓迎の挨拶、江津市の紹介）

説明： 河野正行議員（元新庁舎建設調査特別委員長）

●視察訪問先

江津市役所



●視察概要

■対面式議場での議事運営について

1. 新庁舎建設と議会関係施設の検討について

平成29年6月に議会内に特別委員会を設置し、議論を開始した。当時は庁舎3階に議場、議員控室、4階に委員会室と分かれていたため同じ階にまとめることを目指した。また、当初は新庁舎の最上階に議会施設を置くという方針で議論を進めていた（視察に行った議会は全て最上階に議会が置かれていた）。

議会で検討を行っている同時期に、有識者による検討組織が設けられ、その中では、議場は年間20日程度しか使わないのでもったいないのではないかと、多目的な利用ができるようにすべき、防災施設としても活用できるようにすべきといった意見が出された。これを受け、議場を平面にして、多目的ホールをメインにし、使うときだけ議場とする案が出された。議員の中では反発もあったが、このような使い方をすることで国から1億5,000万円の補助金が得られることが分かり、議員も了承をするに至った。

全面をフラットにしたため、傍聴席も仕切りを置いてあるだけなので、防犯対策が課題となっている。



2. 三浦市から事前に送付した質問事項への回答

新たに導入した機能

- ①電子投票 各議席に配置しているマイクと一体のもの。可動式のため、バッテリー式となっている。議場出席者全員分の数のバッテリー（リチウム電池）を議会事務局で充電している。
- ②残時間表示 議場内に2か所設置。
- ③会議の配信 ケーブルテレビでは生中継、そのほか庁内に配信するシステムをつくり、各職場のモニターから見るができる。

研修終了後は、議会関係施設及び新庁舎の一部を案内していただき、説明を受けた。

■主な質疑応答

Q：多目的ホール（議場）のこれまでの利用状況は。

A：庁内の会議での利用が多い。そのほか、講演会の開催や市民団体が有料で会議などに使用している。週の半分以上は何らかの使用がされている。

Q：利用者の声は。

A：市民はきれいな施設が利用できて喜んでいて、市の職員からは、出入りがしやすくなったと聞く。特段不便であるなどの声はない。

Q：可動式マイクは充電の頻度はどのくらいか

A：一日中使用していると夕方に切れることもある。会議の都度、フル充電をしている。

Q：多目的ホールとして使用するとき、議席などはどこに片付けるのか。

A：議場の横に倉庫があり、全て収納できる。議会で使用するときには多目的ホールで使用する椅子や長机を倉庫にしまう。

Q：ホールの間仕切りはできるのか。

A：できないので、少人数で使用する場合も全面となる。

Q：利用料はどのくらいか。

A：自分（河野議員）が利用したときは2時間で4,420円だった。1時間ごとの額にエアコンの使用などが加算される。市内で会議室を借りるより安価である。

Q：借りる際の予約はどこで行うのか。

A：総務課で受け付ける。

Q：無償での貸し出しは考えなかったのか。

A：検討時のそのような声もあったが、他の会場とのバランスを考えた。無償にして使用が集中することもよくない。

Q：避難所としての使用実績はあるか。また、避難が長期にわたる場合、議会運営との兼ね合いはどうなるのか。

A：まだ避難所として使用した事例はない。避難所としても一時避難所としての使用になると考えている。





行政視察の成果について

島根県浜田市、江津市行政視察を終えて

議会運営委員長 神田 眞弓

1. 11月11日（月） 島根県浜田市

人口約5万人の美しい自然に恵まれた特定第三種漁港で、親交のある浜田市。到着後、エレベーターのドアが開いた瞬間、日本遺産の石見神楽太鼓や笛の音の舞ですばらしいサプライズ歓迎を受けました。



「はまだ市民一日議会」

令和3年度から開催し、本年度は4回目。

浜田市在住、在勤、在学、定員10名、初めての方優先。

テーマは1つ、1人5分、議員からの質問5分。

発言者への対応は全員協議会で協議し、後日、発言者へ報告する。

それぞれのテーマは、暮らしを通じた視点や改善策等。

10代～80代の、年齢も広世代からの参加者がある。

成果として、市民から議会への関心が高まり、市民の意見を伝える場が増えた。発言から施策に反映された等、すばらしい成果が見えました。

本市としても課題の「議会報告会のあり方」を見直すよい機会でありました。

当日はすばらしい石見神楽を披露していただいた職員の方、また、準備をしていた議会事務局、村武議員、牛尾議員には感謝申し上げます。

2. 11月12日（火） 島根県江津市

人口21,000人の、東京から一番遠い町として高等学校の教科書でも取り上げられたことも逆手に取り、それも江津の売りでもあるそうです。

日本三大瓦の一つ、石州瓦の産地でもあるように、赤瓦の家や建物が多くありました。市庁舎も赤瓦が使用されていました。

防災拠点として市民の生命を守り、「市民の広場」としてオープンしました議場は、多目的ホールとしても活用され、中に入ると優しい木のぬくもりのある議場でした。

視察時は議場として配置してありましたが、議会が開催されていないときは多目的ホールとして市民に会議、講演会などで有料で貸し出し、週に半分くらい利用されています。

多目的ホールにするに当たり、準備委員会の中で議場を年何回開催するか等議論があり、多目的ホールとして使用することとなった経過があります。

議場運営については、日程により使用する演壇等が異なるため、準備において確認が必要であること等がありますが、特に問題点はなく、市民からは大変喜ばれているそうです。

本市としても、今回の視察で学んだことを今後の新庁舎づくりの参考としたいと思います。

お忙しい中、鍛冶副議長、議会事務局の職員の方々、本当にありがとうございました。

また、河野議員におかれましては、帰宅後、議会報告会の内容を送ってくださり、ありがとうございました。委員に配付させていただきました。

議会運営委員会 行政視察 報告書

副委員長 小林 直樹

1. 島根県浜田市

〈視察事項〉議会改革について（タブレット端末の活用・広聴機能の充実）

（1）はまだ市民一日議会

市民の方が一つのテーマについて5分間発言をする市民一日議会を行っている。そして、その発言に対して議員が5分間質問をしている。基本的に定員は10名である。

この取り組みで①議会への関心が高まった。②市民の意見を議会に伝える場が増えた。③発言が施策に反映された。等の成果があった。

施策への反映として①子ども条例制定の検討が始まる。②ボールが使える公園建設計画が検討される。③公園に時計が設置された。等がある。

（2）広報広聴機能と議会機能の強化

広報広聴機能の強化として、情報・活動・結果を公開している。また、議会機能の強化として、通年会期の導入等を実施した。

本会議、委員会、全員協議会等、全ての会議をユーチューブで録画配信している。

また、タブレットの導入でペーパーレス化が進み経費削減になっている。



(3) 今後、参考にすべき事項

市民一日議会は、市民からの意見を聞く機会が増えとともに、その意見が施策に反映される等、参考にすべき取り組みだと考える。

現在、三浦市は、本会議の配信だけであり、他の会議の配信も検討が必要である。

2. 島根県江津市

〈視察事項〉議会運営について（対面式議場での議事運営について）

(1) 対面式の議場

市議会の議場は議員席と執行部席が対面式である。傍聴者は横から見るようになっている。電子表決、一般質問残時間表示、テレビ中継等のシステムが導入されている。

(2) 議場兼多目的ホール

市議会の議場は、年間20日程度しか使用しない。使用していない時に多目的ホールとして活用できないか検討をした。その結果、議場兼多目的ホールとなった。

演台、議員と執行部の席等は、可動式で収納スペースに納めることができる。市の庁内会議、市民の会議、講演会等で使用されている。稼働率は50%程である。

多目的ホールとして使用する場合は、長テーブルと椅子が用意されている。使用料金は、1時間2,000円程度である。貸し出しの管理は、総務課で行っている。

(3) 今後、参考にすべき事項

三浦市は、2026年4月に新しい庁舎が引橋に建設される。新庁舎では、議場は対面式になる。また、議場として使用していない時は、多目的ホールとして貸し出しをする予定である。使い勝手や貸し出し方法等を検討し、多くの市民の方々に使用してもらえるような施設にしていくことが必要である。

議会運営委員会 視察報告書

石崎 遊太

島根県浜田市（タブレット端末の活用、広聴広報機能の充実）

施策の概要

<はまだ市民一日議会>

- 議場にて、市民が市政への思いを5分間のスピーチで述べる
- 議員は本会議と同じように着座し、質問も可能
- 発言への対応として、議員全員で協議し、発信者へ報告
- 議員一人ひとりが発言への対応案を提出（集約して公開）



<議会報告会>

- 地域井戸端会として、各常任委員会で議論される政策テーマについてワークショップ形式で意見交換を行う
- 令和5年度は市内28ヶ所で実施
- 各常任委員会から1名ずつの議員計3名で1グループとなり、各グループが会場予約・設営から会の進行まで担当（事務局の同行なし）
- 議員からの報告の後、1テーブルに議員1名がついてテーブルごとで意見交換⇒全体発表

<意見交換会>

- 市の重要案件について、議会が地域協議会の委員や島根県立大学生との意見交換の場を設ける
- 議会の開催要請だけではなく、市民側からの申し込みも可能
- 一例として“選挙におけるSNS戦略の有効性”について、学生が講師となって議員が講義を受講するようなケースも

<ぎかいポスト>

- 各センターに設置され、議会広報広聴委員が回収
- 提出された意見は各委員会に振り分け協議
- 協議の内容や対応の結果についてはHPに掲載
- オンラインで意見を提出できる“議長なんでもメール”も運用

<タブレット活用>

- ペーパーレス化と議員の情報収集機能強化が狙い
- タブレットはリースではなく購入
- 更新後の旧端末も予備機や録画機材として活用
- Zoomアプリを活用し、オンラインによる会議参加が可能
- 議会内のコミュニケーションはLINE WORKSを活用

<その他の施策>

- 議会広報公聴委員会では2年ごとにスローガンを立てており、委員会としての意気込みが伝わってくる（2023～2025年のスローガンは“ミライへつながる議会”）
- 通年会期制が導入され、閉会となる期間が無く常に議会活動が可能となっている
- 年4回発行される議会だよりが無い月には“はまだ議会だよりmini”が発行され、切れ目のない議会の情報提供が実現
- 会議資料が会議日程のページにわかりやすくまとめられている
- 本会議だけでなく委員会や全員協議会等、全ての会議がYouTubeで録画配信
- 議会BCPを策定し、本会議中の地震を想定した訓練や安否確認等も実施
- 政務活動費がより活用しやすく、よりオープンなルールで運用されている
- 会派の代表質問ではなく、常任委員会としての代表質問を行うという委員会代表質問を行うことで、政局ではなく政策本位な提言を行うことができる

個人的な所感

浜田市議会は、早稲田大学マニフェスト研究所が行う直近の『議会改革度調査』において、総合ランキング13位という輝かしい成績を収めています。この結果はもちろん、上にズラッと並べた革新的な議会運営の制度を見ただけで、議会改革への本気度の高さがよくわかります。一般的な議会運営と比べて議員にも事務局にも大きな負担がかかる制度であるのは間違いありませんから、議員一人ひとりの並々ならぬ思いと覚悟、創意工夫が無ければ実現できない施策の数々だと思います。自戒の念も含めて、浜田市議会の皆様に深い敬意を抱くところです。

現実的に考えると、浜田市の個々の施策は通年制議会を前提にしなければ実装が難しい部分も多いと感じました。昨年の視察報告書（宮城県柴田町）でも述べたことですが、浜田市の施策を表面的に模倣しようとしたところでうまくはいかないでしょう。まずは議会がどうあるべきなのか、市民が議会に抱いている不満は何なのか等、一度

まっさらな状態で議会改革について論じる場を設けることも必要だと感じました。

タブレット活用については、三浦市議会と同じように試行錯誤の中でより良い運用を目指して取り組まれていました。会議のオンライン対応や、一般質問での資料投影時の活用など、まだ三浦市議会として実現できていない活用法が大変参考になりました。タブレットは単なるペーパーレス化のためのリーダー的な機能に留まることなく、情報収集、資料作成、会議運営といった幅広い場面で使われることで、議会活動全体のレベルアップにつながらなければなりません。ここは私が所属するICT等検討会でも必死に議論している部分ですので、今回の学びを必ず活かします。

島根県江津市（対面式議場での議事運営について）

施策の概要

<対面式議場導入に至った経緯>

- 平成29年6月、新庁舎建設計画の一環として議場のあり方についての検討が始まる
- もともと議場と委員会室とが別フロアで使い勝手が悪かったため、フロアを統一したいという要望は強かった
- 他の自治体の議場を複数視察した
- 有識者会議の中で、議場の使用頻度が少ない（年間20日ほど）ことが指摘された上、市民ワークショップでも市民が利用できる空間にするべきという意見が出る
- 議場の開放という上記の方向性に対しては議会内で反対意見もあり、議論が繰り返される
- 議場と多目的スペースを兼ねることで国からの補助金がとれるというメリットも含め、兼用での運用という形で話がまとまる
- 令和3年5月に新庁舎開庁

<議場施設について>

- 議場として一般的なひな壇（床に段差が設けられているもの）ではなく、幅広い活用ができるようフラットタイプの床面となっている
- 机や椅子、演台は可動式であり、議場隣の部屋に全て収納が可能
- 議員と職員、議長と傍聴者それぞれ向き合う形の対面式議場の採用



傍聴席から見た議場（左：職員席、右：議員席、奥：議長席）

- 傍聴席の議場の間もフラットで仕切りテープがあるのみで、傍聴者は臨場感を得られる
- カメラは天井に3台設置され、一般質問の録画配信を行っている
- 演台は2つしかないため、本会議のスケジュールによって事前の配置換えが必要
- 電子評決システムを採用しており、可動式のマイクにあるボタンで賛否が表明できる（結果はリアルタイムでモニターに投影）
- マイクはバッテリー式で都度充電を行う
- モニターには質問の残り時間なども投影
- 市民の使用については無償にすべきという意見もあったが、他の施設料金との整合性を取る意味で有料となった

個人的な所感

議会の設置は憲法と地方自治法により規定されているため、議会運営の中心となる議場の目的外利用については、慎重な意見が出たことは容易に想像ができます。しかし一方で、人口減少が続く現代の公共施設整備において、ダウンサイジングとそれに伴う複合的な利用の検討が求められることも事実です。特に一般論として、年間を通じた議場の使用日数（＝本会議の開催日数）は少なく、これを議会の権威の維持という理由だけで市民に開放しないことはナンセンスでしょう。三浦市でも新庁舎の整備にあたり、この部分の議論を深めているところです。

江津市はまさに議場を市民のための多目的スペースと兼ねた形で整備していたため、実際の運用状況について大変参考になりました。“議場を多目的スペースとしても使用する”というよりは、“多目的スペースを議場として使用する”という解釈もでき

る運用となっていることには驚きました。可動式のマイクと連動した電子表決のシステムも各議員の賛否が一目でわかり、今後起立や挙手が難しい障がいを持った方が議員となることも鑑み、三浦市でも取り入れるべきだと思います。

いずれにせよ、新しいスタイルの先進事例として、江津市の対面式議場の運用状況と整備に至った経緯が学べたことは、大変有意義でした。

令和6年度 議会運営委員会行政視察報告書

令和6年11月11日(月)～12日(火)

草間 道治

今回、島根県浜田市と島根県江津市に行政視察に行きました。

1日目の視察では、浜田市で「議会改革について」をテーマに・タブレット端末の活用と・広聴機能の充実について研修を行いました。

本市議会では、令和4年12月議会からタブレット端末の導入を行い、会議システム(SideBooks)を導入し、令和5年3月議会から本格運用を開始しています。

浜田市のタブレット端末の活用状況については、会議システムSideBooksについても本市と同じシステムを活用して、Zoomアプリを全端末にインストールし委員会等をオンライン開催していました。また、一般質問における議員の資料発信についても令和6年9月議会からパネルの使用からデータ形式での資料提示方法に変更を行い、一般質問の内容をより分かりやすく可視化する取組については参考になりました。三浦市議会でもオンライン会議の運用に向け、検討を加速していく必要があると感じました。

広聴機能の充実については、「はまだ市民一日議会」を令和3年度から開催していました。開催内容については、発言者は小学生から80代、定員10名で応募者多数の場合は抽選、発言時間は5分で、発言に対する議員からの質問5分、発言への対応：全員協議会で協議し対応、いただいた意見に対する議会としての対応については、全議員の対応案を添えて回答していました。市民の声を聴き市政に反映させるための情報収集活動としての「はまだ市民一日議会」の取組についても大変参考になりました。

2日目の視察については、本市では令和8年度の新庁舎完成に向け、現在、最終的な設計業務を行っています。議場については、すでに対面式議場にすることや机等を



可動式で多目的利用できる議場にするについては決定していることから、令和3年度に新庁舎が完成している江津市で「議会運営について」をテーマに（対面式議場での議事運営について）研修を行いました

最初に、江津市議会の対面式議場に決定した経緯についての説明では、新庁舎建設有識者会議が設置され、そのなかで議場利用が年間20日前後であり、もったいないというご意見をいただき、議場兼多目的ホールとして使える可動式の対面式議場にしたとのことでありました。また、傍聴席についても同じフロアーにあり、仕切りテープしかないため臨場感を得られるが、事務局としては注視が必要とのことでありました。議場に導入されているシステムについては、電子表決を導入していること、システムについては可動式の議場なので、配線式ではなく充電式バッテリーと無線LANを利用していました、また、カメラ3台が設置され、その操作については議場内で事務局職員が操作する配置になっていました。

その後、議場を見学させていただき感じたことは、通路側がガラス張りであり開放的な設計でありました、傍聴席も含めて多目的ホールとして利用しているところは、これまでの視察で見てきた対面式議場と異なり、全体的にコンパクトな議場であると感じました。

江津市の事務局の丁寧な対応で有意義な視察研修ができ、感謝いたします。

令和6年議会運営委員会行政視察報告書

千田 征志

1・島根県浜田市

議会改革について

① タブレット端末の活用について

タブレット端末の全議員への導入から5年が経過し、タブレット端末のさらなる有効活用と議会運営におけるICTの活用について議会改革推進特別委員会で検討し、令和5年11月の委員改選後から本格的導入し、全議員に貸与しているタブレット端末にLINE WORKSアプリを入れ、情報共有・連絡等に活用。その結果、議会内における情報共有の一層の迅速化と業務の利便性及び効率化が図られ、効果として、トーク機能の充実（委員会ごとのグループをすることにより、委員会内での情報伝達や協議・調整が迅速かつ効率的にできる・既読による状況が把握できるため、伝達漏れがなくなる）、カレンダー機能（事務局が入力した会議等のスケジュールを全議員と共有できる）など、とても参考になる説明をして頂きました。タブレットの有効活用においては、私自身、まだまだ不慣れなことも多いので、しっ



かりと活用できるようにしたいです。

② 広聴機能の充実について

広報広聴機能の強化＝市民の声を聞き、政策に反映させるための情報収集、はまだ市民一日議会の開催、議会だよりのリニューアル、地域協議会との意見交換会の開催など、「議会をより身近に」をスローガンに、市民との積極的な双方向の関係構築を図り、市内5地区、全26箇所での説明会や「わかもの」を意識した活動を新たに取り入れながら小中高などとの接点を確保し、議会に対する理解促進を図る努力に共感するとともに、本市の議会運営においても、今後、より一層の開かれた取り組みに繋がる視察となりました。

2・島根県江津市

① 議会運営（対面式議場での議会運営について）

江津市は、東日本大震災や熊本地震の発生によって市庁舎の耐震性を確保することの重要性が高まったことを受け、平成29年に新庁舎建設の方針を決定し、令和3年5月に効率的で利便性の高い市民防災拠点としてオープンし、新たな議場においては、対面式議場を設け、市民にも開かれた議場として多目的ホールでも使用できる議場として市民の皆さんも活用していると説明を受けました。

対面式議場での議事運営については、これまでは、議員が質問する際、議長席前の演壇から他の議員や傍聴者に向かって発言をしており、質問相手である市長や理事者に対し、面と向かって質問や追及、提案や提言ができませんでした。この対面方式のメリットは、質問者が市長や理事者と向き合うため、より臨場感、緊張感を持って質問や論議ができ、傍聴者も議員や執行部の表情が見やすいなど、議会がより一層、市民に近い場となり「開かれた議会」になっているそうです。

本市においても、新庁舎オープンに向け、江津市の議会運営を参考にして、今後の協議に向け、様々な意見を交わしたいと思います。わずかな視察時間でしたが、浜田市、江津市の説明員の皆様におかれましては、心より御礼申し上げます。

令和6年度三浦市議会 議会運営委員会行政視察報告

森谷 久一郎



1 島根県浜田市

テーマ 議会改革について

- ・タブレット端末の活用
- ・広聴機能の充実

○タブレット端末の活用について

- ・LINE WORKS、SideBooksをフル活用して様々な議会活動に取り組んでおり、三浦市でも見習う点が多々あると思われる。今後のICT等検討会の取組みを充実させていきたいと思う。
- ・活用の一つにオンライン会議の導入があるが、三浦市でも条例改正により導入可能であり、実施に向けて推進していきたいと思う。
- ・また、市議会ホームページに、議会日程や録画動画、会議録を掲載している取組みも、市民にとってわかりやすく、本市でも導入を検討すべきと感じられた。

○広聴機能の充実について

- ・「はまだ市民一日議会」については、斬新な取組みであり、市民からの率直な意見に対して、各議員が名前を出して対応案を考案していることは素晴らしいと思う。アンケート結果でも、発言者・傍聴者ともに高い満足度を示している。三浦市においても、実施を検討する価値が十分にあると思われる。
- ・議会報告会は地域井戸端会として、市内28箇所（令和5年度）で開催されている。三浦市と異なり、より小規模な単位で行っており、参加議員は各常任委員会から1名ずつ計3名と少人数で対応している。実施するには相当な労力が必要と思われるが、大きい単位での開催よりも、より身近に、また懇談的に市民と議員が話し合うことができることは、大きなメリットがあると感じられた。

2 島根県江津市

テーマ 議会運営について（対面式議場での議事運営について）

○議場兼多目的ホールについて

- ・議場に導入されている会議システムを活用して、電子表決や一般質問残時間等が表示される。また、事務局職員が操作盤を操作して、発言者を撮影したり全体を移

すなどのカメラの切替えや、表決状況などのモニターへのオンライン表示が可能となっている。

- ・ 議場は、対面式かつ段差のないフラットな構造で、議員席と理事者席との間隔が比較的近く、緊張感のある質疑応答が期待できると感じた。また、傍聴席も同じくフラットで同じ高さで質疑応答を聞くことができるが、仕切りが簡易なものであり、管理上の課題がある。
- ・ 多目的ホールとしての有償の利用が可能であり、様々な利用が可能であるが、市としては利用についての広報は現状積極的に行っていない。議場優先という制約はあるものの、市民利用をもっと進めてもよいと思われた。

3 全体を通して

今回の県外視察は、三浦市が令和8年4月から使用する予定の新しい議場を初めとする各議会施設の運用や、議会の広聴・広報の在り方に大いに参考となるものがあつた。

諸条件の違いがあるものの、両市の取組みの良い点を三浦市でも導入することにより、市民にとっても、議会にとっても、また市の職員にとっても大きなメリットが期待できると思った。

議会運営委員会行政視察報告

長島 満理子

島根県浜田市議会

議会改革について

早稲田大学マニフェスト研究所が実施している、議会改革度調査2023において、市民に対しての情報共有、市民参画、議会の機能強化などで総合ランキング13位の結果であつた。

広報公聴機能の強化を検討し、ホームページや議会だよりなどの広報活動や議会報告会、はまだ市民一日議会などの広聴活動に取り組んでいると説明があつた。



タブレット端末の活用について

会期中の予定はもちろん、議案や議会等の資料の事前公開を市議会ホームページで積極的に情報発信をしている。また、ケーブルテレビ会社と市議会中継放送業務委託

契約し動画配信に取り組んでいる。三浦市議会でも本会議ではユーチューブ配信を行っているが、「市民に開かれた、市民のための議会」を目指しているので、今後はケーブルテレビとの業務委託を考え、情報公開の場を広げることができると考える。傍聴者に対しても、ロビーにモニターを設置し視聴可能なスペースがある。議員活動において、タブレット端末を使いこなしていけないといけないと感じた。

公聴機能の充実について

議会広報公聴委員会の「はまだ市民一日議会」については、とても興味のある説明を聞くことができた。令和3年度から始まった取り組みで、議場にて市民の暮らしの中で感じたことや改善策などを発言時間5分で発表し、議員の質問等に答える。参加者は応募で10名、市内在住、在勤、在学で小学生や大学生も参加している。参加者の意見は、全員協議会で協議し対応をしている。

また、議会報告会も予算審議後に地域井戸端会としてワークショップ形式で開催し、令和5年度は28カ所開催した。

参加者には苦勞する点もあるが、市民との意見交換の場が多く、議会として政策に反映することが出来ていることが参考になり、今後の議会報告会等で取り入れられたらいいと思う。

島根県江津市議会

令和3年に新庁舎が新築された江津市役所を視察した。主に議場を見学した。

議場は市民に開かれた議場として、議場兼多目的ホールとして議会閉会中は庁内の会議や市民が利用している。

議場はフラットになっていて、傍聴席と議場の間は、仕切りテープでしか区切っていないため、傍聴者は臨場感を感じることが出来る一方で防犯対策が必要とされる。

庁内とケーブルテレビで議会中継されている。動画カメラは3台設置されていて、テレビ放送以外は事務局職員が担当する。

多目的ホールとしての利用は、PR不足で利用者は少ないが、フラットな施設なので問題なく利用できるようになっている。管理は総務課、1時間2,000円くらいで貸し出している。

今後の新庁舎の議場について、参考になることが多かった。

議会運営委員会行政視察 報告

議長 出口 眞琴

11月11日（月）、12日（火）の2日間で、島根県浜田市「議会改革について」・江津市「議会運営について」行政視察を行いました。

1日目は、島根県浜田市に「議会改革について」・タブレット端末の活用・広聴機能の充実について視察研修を行いました。

浜田市は島根県西部に位置し、人口50,755人（2024.10/1現在）、面積は690,64km²で三浦市の約20倍の広さがあり、三浦市と同じ特定第三種漁港であります。議会は議員定数22名です。

浜田市の議会改革の取り組みは議会改革度調査2023で全国13位となりました。特徴的な取り組みは、

1. 情報共有 各種会議の開催日時や会議資料の事前公開、会議の録画配信、各議員の議案等に対する賛否、反対理由の公開
2. 住民参画 大学生、関係団体との意見交換会、議会報告会、はまだ市民一日議会などの実施
3. 機能強化 議会BCPを策定、オンライン委員会の開催や自由討議の実施などの取り組みです。

議会の見える化を目指し、議会HPで議会なんでもメールや委員会等の視察報告の公開、議案や会議等の資料を事前公開などしています。

議会広報広聴委員会の活動では、「はまだ市民一日議会」を開催しています。市民のご意見・政策提案等を聴いて発言から施策に反映、議会への関心など成果をあげています。

議会報告会（地域井戸端会）は、議員間でチームを作り、R5年度28箇所で開催、ぎかいポストを設置し、意見を各委員会で協議し対応、結果をHPで掲載するなど広聴活動から市民から信頼される議会を目指しています。

浜田市の報告で感じた事は、市民に議会をもっと知って頂き、市民と議会が身近な関係になる事が必要と考えます。そのためにも私たち議会が一丸となり努力していく必要があります。

2日目は、江津市の「議会運営について」です。



江津市は浜田市のお隣に位置し、人口21,131人（2024.10/1現在）、面積は268.24km²で三浦市の約10倍強の広さですが、島根県では一番狭い市です。地場産業として石州瓦の生産地として有名な所です。議会は議員定数16名です。

江津市では「議会運営について」、三浦市でも新庁舎建設を進めている中で対面式議場での議事運営について視察研修を行いました。

令和3年5月6日に、市民を見守り、市政を支え、地域を表現する新庁舎が完成しました。私達が視察に訪れたのは江津市役所の議会関係施設で、4階建ての2階で議会事務局・多目的ホール（議場）等、ほか行政部署が入っています。防災拠点として市民の生命を守り、効率的で利便性の高い市民の広場として開かれた新庁舎がコンセプトです。

江津市役所の議場は、段差のないフラットな床面で議場を構成し、議場内傍聴席も含めてバリアフリーです。議会閉会中における多目的な利用を想定し、議場用家具である椅子や机を可動式として倉庫に収納することで、議会以外の多目的な利用が出来、市民が講演会等の様々な開催が可能なホールとしての機能となっています。また、災害時等の場合の避難所となっています。

メリットは、議会閉会中における多目的な利用可能、可動式家具なので定数変更など柔軟な対応が可能、車椅子等の利用に対応が可能等。デメリットは議場内のセキュリティを確保する対応が必要、視界確保に支障が考えられます。

最後に、三浦市議会では議会の機能向上や、市民に開かれた議会を目指し、議会改革に取り組んでいます。

